

抄 録

口頭発表

レジオネラ症患者発生事例について
～感染源を循環式浴槽水とした～

中山浩一郎 吉國謙一郎 本田 俊郎¹
石谷 完二 新川奈緒美 藏元 強
川元 孝久

〔 第46回鹿児島県公衆衛生学会
平成16年5月17日 鹿児島市 〕

2003年9月、県内の医療機関から、肺炎症状を呈した65歳男性の喀痰培養検査で *Legionella pneumophila* 血清1 (*LpSG1*) が分離されたことにより、保健所にレジオネラ症の届け出があった。管轄保健所における調査の結果、患者は潜伏期間内に県内の宿泊温泉施設(循環式浴槽)を利用していた。そこで当センターにおいて、同施設の浴槽水等について、レジオネラ属菌の培養検査を行い、*LpSG1* において、由来の同一性を確認するために、パルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)検査による遺伝子解析を行った結果、これらの *LpSG1* は同一遺伝子パターンを示したため、同施設の浴槽水が感染源であることを特定した。

1 鹿児島県出水保健所

風疹の地域的な流行について

新川奈緒美 石谷 完二 中山浩一郎
本田 俊郎¹ 吉國謙一郎 藏元 強
川元 孝久 中野 秀人² 相星 壮吾³
海野 幸子⁴

〔 第46回鹿児島県公衆衛生学会
平成16年5月17日 鹿児島市 〕

2004年2月から徳之島保健所管内において風疹が発生し、その50%以上は成人の患者であった。風疹は軽症発疹性疾患で、一般的には予後良好であるが、風疹に対する免疫のない妊婦がその初期に感染すると、その児に先天性風疹症候群を発症させる危険性がある。今回の流行で妊娠初期の妊婦に風疹を認めたことから、風疹流行の実態を把握し、感染拡大を防ぐためにウイルス学的検査

及び疫学的調査を実施した。さらに、風疹は感染症発生动向調査による定点観測では小児科の定点把握疾患になっているため、成人患者の発生と動向を把握しがたい一面を持っていることから、小児科以外の定点でも患者報告ができるなどの監視システムについて再検討する必要性が示唆された。

- 1 鹿児島県出水保健所
- 2 鹿児島県県民健康プラザ鹿屋医療センター
- 3 鹿児島県徳之島保健所
- 4 国立感染症研究所

トカラ列島におけるマダニ相調査と
鹿児島県における今後の調査展望

本田 俊郎¹ 御供田睦代 藤田 博己²
〔 第12回ダニと疾患のインターフェイスに
関するセミナー (SADI)
平成16年6月26日 屋久島 〕

鹿児島県は、全国最多のつつが虫病患者発生県であり、かつ日本紅斑熱患者も増加傾向にあるため、発生原因究明のために、ベクター(媒介動物)であるマダニ類とリザーバー(保菌動物)の野鼠からの病原体検索を実施してきた。その中で、動物地理学的にも重要な地域のトカラ列島のマダニ相調査を実施(平14~15年)し、同定結果及び病原体リケッチア分離結果を報告した。

さらに、本県における今後の課題として、少なからず散発している不明熱疾患の原因解明に向けての各種疾患病原体も考慮した調査の必要性を報告した。

- 1 鹿児島県出水保健所
- 2 大原総合病院附属大原研究所(福島県)

鹿児島県における酸性降下物

藪 平一郎 谷元 エリ 川元 孝久
〔 第30回九州衛生環境衛生協議会
平成16年10月7日 熊本市 〕

鹿児島市、喜入町及び奄美大島で酸性降下物調査を行った。

降水では、pHは奄美大島が高く喜入、鹿児島市の順

で低かった。湿性沈着降水量は海塩由来の成分が奄美大島で高かった。エアロゾル成分では、硝酸イオン、アンモニウムイオンが鹿児島市で他の2地点に比べて2倍近く高かった。ガス成分濃度では二酸化イオウ、硝酸が鹿児島市で奄美大島の3倍以上の値を示すなど地域差が見られた。

鹿児島県における風疹の地域的な流行について

新川奈緒美 藏元 強 川元 孝久

〔第30回九州衛生環境技術協議会〕
平成16年10月7日 熊本市

2004年2月から7月にかけて、鹿児島県徳之島保健所管内において風疹が発生し、その半数以上に成人の風疹流行がみられた。風疹は一般的には軽症発疹性疾患で、予後良好であるが、風疹に対する免疫のない妊婦がその初期に風疹に感染すると、その児に先天性風疹症候群を発症させる危険性がある。今回の流行で妊娠初期の妊婦に風疹を認めたことから、風疹流行の実態を把握し、感染拡大を防ぐためにウイルス学的検査及び疫学的調査を実施した。調査の結果、患者の大半がワクチンを接種していないことが判明した。予防接種は風疹感受性を減少させ、流行を阻止する上で有効であることから、我々はワクチン接種に対する目的意識を持ち、自分自身が風疹流行の感染源とならないことが、次世代の子供達の健康を守るために課せられた責務といえる。さらに、風疹は感染症発生動向調査による定点観測では成人患者の発生と動向を把握しがたい一面を持っていることから、成人の患者報告ができる監視システムについて再検討する必要があるといえる。

示説発表

鹿児島における風疹の地域的な流行について

新川奈緒美 藏元 強 川元 孝久

中野 秀人¹ 相星 壮吾²

〔第63回日本公衆衛生学会〕
平成16年10月28日 松江市

2004年2月から鹿児島県徳之島保健所管内において風疹が発生し、その半数以上に成人の風疹流行がみられた。しかも、今回の流行で妊娠初期の妊婦に風疹を認めたことから、風疹流行の実態を把握し、感染拡大を防ぐためにウイルス学的検査及び疫学的調査を実施した。調査の結果、患者の大半が風疹ワクチンを接種していないことが判明した。患者の中に風疹ワクチンの接種歴があるものを1例認めたことから、secondary vaccine failureと考えられた。本県の風疹ワクチンの予防接種率は66%台と低く、このような低い接種率の推移は、次第に風疹患者の年齢を上昇させ、その結果、抗体を持たない妊婦が風疹に感染し、その児に先天性風疹症候群を発症させる可能性が考えられた。我々はワクチン接種に対する目的意識を持ち、自分自身が風疹流行の感染源とならないことが、次世代の子供達の健康を守るための責務であるといえる。さらに、感染症発生動向調査による定点観測では成人患者の発生と動向を把握し難い面もあることから、小児科以外の定点でも患者報告ができるなどの監視システムについて再検討する必要性が示唆された。

- 1 鹿児島県民健康プラザ鹿屋医療センター
- 2 鹿児島県徳之島保健所

論文発表

原著

吐物が感染源と推察されたノロウイルス集団胃腸炎事例について

新川奈緒美 川元 孝久 秋山 美穂¹

加藤由美子¹ 西尾 治¹

〔臨床とウイルス 第32巻第3号〕
日本臨床ウイルス学会

1999年11月から2002年2月の間にノロウイルスによる集団胃腸炎3事例が小学校、幼稚園の忘年会及び剣道大会で発生した。3事例とも、疫学調査及びウイルス学的検査からは、食品が原因とする根拠は得られず、食品を媒介とする感染は否定された。これらの集団発生は患者の発生が一峰性を示し、1日から2日で終息したこと、かつ患者から検出されたノロウイルスの遺伝子型が事例ごとで同一であったことから、限られた期間に単一株による感染を受けたと推測された。3事例とも集団発生の1日から2日前に集団発生現場で嘔吐した患者がみられ、吐物の処理が適切に行われていなかったことから、吐物が

感染源として考えられた。リアルタイムPCRの結果、吐物には大量にウイルスが存在していたことから、ウイルス学的に不適切な吐物の処理により、感染が拡大する危険性が示唆された。

1 国立感染症研究所

誌上発表

鹿児島県における放射能調査

坂本 洋 白坂邦三郎 榮 哲浩
奥江 碩

第46回環境放射能調査研究成果論文抄録集
文部科学省

平成15年度に実施した文部科学省委託の環境放射能水準調査は、前年度に引き続き、定時降水の全 β 放射能、降水物、陸水（蛇口水）、土壌、精米、野菜（大根、ホウレンソウ）、茶、牛乳、日常食、海産生物、海水及び海底土の核種分析並びに空間放射線量率について実施した。

調査結果は、いずれも、これまでの調査結果と同程度のレベルであり、異常は認められなかった。